

杉野 草兵（すぎの・そうへい）

1、プロフィール

川柳作家。昭和 32 年より川柳入門。入門早期より中央の著名柳人と知遇を得幅広い川柳を吸収。帰郷後革新的な川柳を指導、県柳界に大きな影響と足跡を残した。

<生没>

1932(昭和7)年6月28日～2007(平成19)年7月12日

<代表作>

川柳句集『学生日記』(1985年刊)『C』(1989年刊)

<青森との関わり>

青森市に生まれる。薬剤師として県内の国立病院療養所へ勤務。

2、作家解説

昭和7年青森市に誕生。本名宗平。父は川柳作家の杉野十佐一、父の薬店開店により東津軽郡蟹田町へ転居。昭和30年東京薬科大学卒業、同年日本製薬入社。昭和34年下北郡田名部町にて薬店経営。昭和41年国立大湊病院へ薬剤師として勤務、この後県内外の国立病院療養所へ定年まで勤務する。定年後は蟹田町で薬店経営。

昭和32年東京都教育委員会主催の川柳講座を受講し川柳入門。村田周魚ときやり社の指導を受ける。また都内の句会に出席し、川上三太郎、片柳哲郎、山村祐等と知遇を得幅広い川柳を吸収する。後川上三太郎に師事。昭和34年田名部町に薬店開店、地元の柳人や県柳人と交流を持つ。昭和51年帰青し青森市にある国立松丘保養園に勤務し県内で本格的な川柳活動を行う。昭和52年「かもしか」誌の「北貌集」選者となり以後10年間に渡り幅広い川柳や革新的な川柳を指導。若手作家を輩出し県柳界に大きな影響を与えた。昭和54年、高田寄生木、北野岸柳、野沢省悟と研究句会「Cの会」を創立。「Cの会」は平成4年

に終るが、この間革新的な川柳を指導。昭和 57 年より平成 11 年まで「かもしか川柳社」代表。昭和 58 年篤志家からの寄付を基に本格的な川柳作家賞として「川柳 Z 賞」を制定、全国的に高い評価を得た。

平成 8 年蟹田町観瀾山に川上三太郎句碑「夜があげて鴉だんだん黒くなり」の建立に尽力。父十佐一が龍飛岬に三太郎句碑「龍飛岬立てば風浪四季を咬む」の建立に尽力したことと合わせて特筆すべきことである。また昭和 51 年松丘保養園に勤務してから長きにわたって「同園の「北柳吟社」の句会を指導、運営に協力したことも記憶に残されるべきであろう。

3、資料紹介

○『学生日記』

図書

1985(昭和 60)年6月 16 日

183mm × 130mm

川柳句集。著者の第 1 句集で、著者の学生時代に創った川柳を 1 冊にまとめたユニークな句集である。編集野沢省悟、発行所かもしか川柳社。

○『C』

図書

1989(平成元)年5月1日

183mm × 130mm

川柳句集。かもしか川柳文庫の第 21 集として刊行。著者のこれまでの作品を高田寄生木が厳選。集中「癩園の四季」の連作は秀作といえる。編著高田寄生木。発行人杉野草兵。発行所かもしか川柳社。